

## 令和2年度 書道Ⅱ シラバス

書道Ⅱ	単位数	2単位
	学科・学年・学級	普通科 第2学年 1～4組選択者

### 1 学習の目標

学習の目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
使用教科書・副教材等	東京書籍「書道Ⅱ」

### 2 学習計画

#### (1) 年間指導計画案

月	分野	学習内容 (教科書の構成)	配当 時数	学習活動
四月	漢字 仮名 交じり の書	1 漢字の古典を生かした表現 ・蘭亭序に基づく表現 ・牛嶽造像記に基づく表現 ・争坐位文稿に基づく表現	5	・書道Ⅰで学習した中国と日本の代表的な古典(楷書・行書)を鑑賞し、特徴を確認する。 ・それぞれの古典の漢字に調和する仮名の表現を考える。 ・漢字と仮名を調和させて、漢字仮名交じりの書を書く。 ※さまざまな用具・用材を実際に手に取って使用してみる。
		2 仮名の古典を生かした表現 ・粘葉本和漢朗詠集と関戸本古今和歌集に基づく表現	1	・仮名の名筆を二種取り上げて鑑賞し、特徴を確認する。 ・それぞれの名筆に調和する漢字の表現を考える。 ・仮名と漢字を調和させて、漢字仮名交じりの書を書く。 ※粘葉本和漢朗詠集からは、漢字と仮名の調和を図ることを理解する。 ※関戸本古今和歌集からは、変体仮名を含む仮名の基礎・基本を身に付ける。
		3 漢字と仮名の古典を生かした表現 ・蘭亭序と高野切第一種・第三種に基づく表現	1	・漢字と仮名の古典を鑑賞し、それぞれの特徴を確認する。 ・漢字と仮名の古典を調和させる表現方法を理解する。 ・漢字と仮名の古典を調和させて、漢字仮名交じりの書を書く。
五月	漢字 の書	1 楷書 臨書・鑑賞 ・張猛龍碑 ・薦季直表 ・爨宝子碑 ・始平公造像記 ・賢愚経(大聖武)	6	・書道Ⅰでの楷書の学習を踏まえて、より個性的で多様な楷書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「人物」「時代背景」なども活用する。 ・楷書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。 ※「字形と筆順」なども活用する。
		2 行書 臨書・鑑賞 ・集王聖教序 ・李柏尺牘稿 ・温泉銘 ・灌頂歴名 ・蜀素帖	6	・書道Ⅰでの行書の学習を踏まえて、より個性的で多様な行書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「人物」「時代背景」なども活用する。 ・行書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。 ※「字形と筆順」なども活用する。
六月	漢字 の書	3 草書 ・草書の美	1	・書道Ⅰでの草書の学習を思い出ししながら、草書の成立について、書風の変遷と特徴の両面から理解を深める。
		臨書・鑑賞 ・書譜 ・十七帖(逸民帖) ・自叙帖 ・忽惠帖	5	・書道Ⅰでの草書の学習を踏まえて、より個性的で多様な草書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「人物」「時代背景」なども活用する。 ・草書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。 ※「字形と筆順」なども活用する。
七月	漢字 の書	4 隷書 ・隷書の美	1	・書道Ⅰでの隷書の学習を思い出ししながら、隷書の特徴や用筆について理解を深める。
		臨書・鑑賞 ・礼器碑 ・張遷碑 ・開通褒斜道刻石 ・敦煌漢簡	5	・書道Ⅰでの隷書の学習を踏まえて、より個性的で多様な隷書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「時代背景」なども活用する。 ・隷書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。 ※「字形と筆順」なども活用する。
八月	漢字 の書			
九月	漢字 の書			

月	分野	学習内容 (教科書の構成)	配当 時数	学習活動
十月		5 篆書 ・篆書の美	1	・書道 I での篆書の学習を思い出しながら、篆書の変遷について理解を深める。
		臨書・鑑賞 ・石鼓文 ・甲骨文 ・小臣觶犧尊 ・臨石鼓文 ・篆書張茂先勵志詩	4	・書道 I での篆書の学習を踏まえて、より個性的で多様な篆書の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「時代背景」なども活用する。 ・篆書の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。 ※「字形と筆順」なども活用する。
		創作の手順 創作参考作品	4	・創作の手順に従い、漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、創作する。 ・創作参考作品を鑑賞し、感想を述べ合う。
十一月	篆刻と刻字	1 篆刻 ・歴史と用法 ・押印・発表の方法 ・生活の中の印 創作の手順 創作参考作品	4	・篆刻の歴史や押印・発表の方法などを理解する。 ・創作の手順に従い印を完成させて、押印する。 ・創作参考作品を鑑賞する。
		2 刻字 創作の手順 創作参考作品	2	・創作の手順に従い、刻字作品を制作する。 ・創作参考作品を鑑賞する。
十二月	仮名の書	1 仮名の美の展開 ・古今和歌集に見る展開	1	・書道 I の学習を踏まえて、日本独自の仮名の美を鑑賞し、日本の伝統文化を理解する。
		臨書・鑑賞 ・粘葉本和漢朗詠集 ・関戸本古今和歌集 ・三色紙（継色紙）（升色紙）（寸松庵色紙）	6	・書道 I での仮名の学習を踏まえて、より個性的で多様な仮名の表現を鑑賞し、理解を深める。 ※「歌の意味」なども活用する。 ・仮名の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方などに注意して臨書する。 ※「硬筆で練習」なども活用する。
		2 連綿 ・連綿の学習 ・変体仮名の学習	1	・書道 I の学習を踏まえて、連綿による文字の表情の変化と効果について理解を深める。
一月		3 仮名一覧表 ・平仮名・変体仮名	1	・書道 I の学習を踏まえて、平仮名と変体仮名の用筆、字形の取り方について理解を深める。
		4 行書き・散らし書き ・行書きの学習 ・散らし書きの学習	4	・書道 I の学習を踏まえて、行書きと散らし書きの基本的技法を理解する。
二月		創作の手順 創作参考作品	4	・創作の手順に従い、仮名の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、創作する。 ・創作参考作品を鑑賞し、感想を述べ合う。
三月	交じりの書②	1 名筆・古典に学ぶ漢字と仮名の調和 ・名筆・古典の鑑賞 ・良寛「愛語」に基づく表現	2	・漢字仮名交じりで書かれた名筆・古典を鑑賞し、漢字と仮名の調和について理解する。 ・名筆・古典の鑑賞を通して磨いた感性を生かし、漢字仮名交じりの書を書く。
		2 仮名に学ぶ漢字と仮名の調和 ・藍紙本万葉集に基づく表現 創作の手順 創作参考作品	2	・書道 I では未習の仮名の古典の特徴を確認し、調和する漢字を考える。 ・仮名と漢字を調和させて、漢字仮名交じりの書を書く。  ・創作の手順に従い、漢字仮名交じりの書で学んだ技法を生かして創作する。 ・創作参考作品を鑑賞し、感想を述べ合う。
			70	

### 3 評価方法

<b>評価方法</b>	<p>評価は具体的に次のものを対象にする。</p> <p>① 提出作品・・・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において本時の学習目標に応じた表現ができたかが評価の基準になる。</p> <p>② 作品の構想や感想・評価などを記した「評価カード」・・・自分の制作過程や授業内容の理解、自己評価などの充実。</p> <p>③ 学習活動への参加状況・・・用具用材の扱い（準備や片付け）、学習態度、意見発表等。</p> <p>④ 定期考査</p> <p>1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。</p>
-------------	--

### 4 補足

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道の学習においてはまずよく見るのが大切です。本時の授業内容が作品のどこを示しているのか、自らの考え、感性にもとづき表現しましょう。</li> <li>・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのために「評価カード」はよく考え、丁寧に書きましょう。</li> <li>・創作においては感興に応じた表現を効果的に行うため、形式や詩文、用具・用材などを積極的に選択していきましょう。</li> </ul>
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。</li> <li>・用具は個人の所有の物、学校の備品ともに大切に使いましょう。特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。</li> </ul>